

魅力あふれる 私立小学校の 世界

日本私立小学校連合会 会長
東京私立初等学校協会 会長
東京都市大学付属小学校 前校長

重永 睦夫

今春まで第八波に及んで猛威をふるった新型コロナウイルス感染症に対して、最初からの確に対応し、オンラインによる児童の家庭学習支援を実現してきた私立小学校。本年5月より新型コロナウイルスが「5類」に下げられ、名実ともにウィズコロナ時代となる中、私立小学校が展開する学びの魅力とは何か、日本私立小学校連合会会長の重永睦夫先生にお話を伺いました。

(聞き手：大学通信代表取締役社長・田所浩志)



——未曾有のコロナ禍を受け、私立小学校をめぐる環境も大きく変わりました。

私立小学校の歴史を振り返ると、各校とも長い間、児童募集を前面に打ち出すということはありませんでした。経済成長や右肩上がりの人口動態で、私立小応募者は減ることがなかったからです。

その私立小学校が募集活動に取り組み始めたきっかけが1990年のバブル崩壊であり、2008年のリーマンショック、そして2011年3月の東日本大震災です。「不景気や災害のあとは遠距離通学は敬遠される」という法則ですね。

ところがコロナ禍では、その法則が反対に作用しました。コロナ禍に対する私立小学校のきめ細かな対応が「やっぱり私立小

だ」という信頼を強めたと多くの方に言われました。

2020年2月から新年度までまいで実施された、小・中・高等学校および特別支援学校の全国一斉休校措置において、公立小

コロナ禍で私立小教員研修が進化、教員の意識も大きく進化

——私立小学校ではコロナ禍において、児童と保護者に寄り添う意識の進化と、ICT環境の進化が顕著でした。

第一に、今年の4年生以下は小学校入学以来、マスク姿の友達しか知らない、学校行事も感染対策優先というような極めて制限された小学校生活しか経験していません。これは、児童の成長発達を損なう事態です。そういう中だからこそ、児童の学びを止めてはならない、どう児童の成長を保障できるかを強く意識しました。もちろん自分たち教職員の健康も守る。教職員の意識が鍛えられました。

第二に、ICT環境はコロナ禍の前から着々と進められていましたが、一斉休校というピンチを、オンライン学習を飛躍的に進めるチャンスに切り替えたのが私立小学校でした。研修会をオンラインも使って旺盛に進めましたのでICTスキルは飛躍的に

学校では、児童に新年度の教科書を届けるので精一杯でしたが、私立小学校ではICT環境整備のもと、インターネットを活用しての対応を取ることができた。私立小学校の先取性と対応力を示すことができました。

アップしました。

——コロナ禍における各校の具体的な取り組みについて教えてください。

家庭に閉じ込められて、どこにも出かけられない子どもたちに寄り添うにはどうしたらよいか、ということに心を痛めました。「コロナ禍だから仕方ないよ。我慢してよ」という気持ちになれないのが小学校の先生なのですが、私立小学校が公立と違うところは、教育委員会による画一的な規制がないということです。教育委員会は各校の均一化を重視します。私立小学校は、学校法人理事長と校長が連携して直ちに行動に移します。

消毒体制や換気の方法、検温体制をはじめ、考えられる限りの感染予防対策の構築はもちろんのこと、授業をはじめ、すべての学校行事や教育プログラムをコロナ禍対応でどこまで出来るか直ちに検討しました。

6年生の修学旅行が中止を余儀なくされても、工夫を凝らして代替の日帰り遠足を複数回実施するなど、一生の思い出に残るものにした。学芸発表会や音楽発表会、運動会などについても密にならない工夫をして実施したり、コロナ禍に負けずに児童の思い出作りに知恵を絞りました。

私たち東初協（東京私立初等学校協会）、また日私小連（日本私立小学校連合会）では、将来に備えて、各校のコロナ対応について「知の蓄積」をする取り組みを行っています。

——児童や保護者の方々にはどのように対応されましたか。

保護者の方々も、通常の年度より学校に出かけるチャンスがめっきり減りました。学校における、わが子の姿を直接確認できる機会がなく、生身で得ることのできる学校情報が極めて少なくなりました。仕方がないこととは言え、ストレスが溜まります。

デジタル時代における「新しい教育」とは

——2020年度から小学校のカリキュラムは新学習指導要領に全面移行しましたが、私立小学校はそのテーマである「主体的・対話的で深い学び」を先取りしてきました。理数教育や外国語教育、情報教育、体験活動など、私学ならではの教育の特徴について教えてください。

これは私立に限りませんが、小学校の教育とはもともと「アクティブラーニング」なのです。双方向の授業でなければ、子どもたちは心を動かしません。教師が問いを投げかけることで子どもたちに考えさせ、グループで互いに討議させたりして、それをまた教師に戻すというダイナミックな学びが、むかしから小学校教育なのです。

また、理数教育や外国語教育などについても、多くの私立小学校が長い歴史の中で教育の実践を培ってきた分野で、それぞれ独自の成果を上げて今日に至っています。

今回の改訂で特に新しい教育課題として出されているのがプログラミング教育ですが、私立小学校の中にはすでに集中講義という形でプログラミング教室を開いたり、アフタースクールでも、希望制で子どもたちに教えています。新学習指導要領では最終的に、プログラミング教育を全教科の中に落としこんで、論理的思考を養うということになっていますが、私立小ではこれまでの実績を基礎に、新しい実践的な教育プログラムが開発されていくと思います。

——小学校教育の根幹にあるアクティヴ

重永 睦夫先生

日本私立小学校連合会会長、東京私立初等学校協会会長(2023年4月インタビュー時点)。東横学園大倉山高校校長退任後、学校法人五島育英会主幹として東京都市大学グループ発足にあたる。その後、21年3月まで東京都市大学付属小学校の校長を務める。

ですから、コロナ禍での保護者対応は通常よりもいっそう大事なのだと心しました。

保護者面談を対面で行うか、Zoomなどのオンラインで行うかは各校それぞれだとしても、保護者の方々に寄り添って綿密な計画で進めてきました。

コロナ禍は、学校と保護者の結びつきという点でも深化させられましたね。2年3年と続いた危機ですから、学校と保護者というだけの関係から「危機からこどもを共に守る仲間」という意識が育かれたと感じております。

ラーニングなどはまさに、私立学校の歴史における新しい教育のムーブメントの中で実践されてきた教育のあり方と言えますね。

わが国の初等教育の歴史を振り返りますと、明治に入り、西欧列強に伍するため近代的な学制を整備するに当たって、当時の寺子屋を小学校に移したため、最初は3分の1が私立小学校でした。その後、ほとんどが官製の公立小学校として組み込まれていく過程で、富国強兵の動きとも重なりますが、全国の教育が画一化されていくわけです。そうした中で、子どもたちを中心に進める教育という、欧米でも活発化していた「新教育」の思想から大正自由教育運動が日本でも興りました。

1921年に「八大教育主張」という有名な講演会が開かれましたが、その中で小原國芳先生が「全人教育」論を主張されました。小原先生は澤柳政太郎先生が成城学園を創設した際に同校に赴任し、のちに玉川学園を創設するのですが、その全人教育論は今では当たり前のように教育界で語られます。文部科学省の中央教育審議会答申にも「全人教育」という言葉が使われています。日本をリードする教育者の提唱者が私立小学校の先達だということを強調しておきます。

——近代教育草創のころ私立学校を興した多くの教育者たちは、今日に至る教育の本質を見通しておられたのです。

ですから、中学受験の学校と思われてい



る私立小学校でも、小学校の6年間を勉強だけさせるといような学校はまずありません。すべての私立小学校が「楽しい学校生活で心豊かに成長すること」を第一にカリキュラムを開発しています。

——2024年度からは、小学校でデジタル教科書が本格導入されます。

デジタル教科書の問題は、学校教育の根幹に関わることなので、私たちも文部科学省の部会に意見書という形で現場の考えを提出しました。

例えば、デジタル教科書では児童が画面に直接書き込みができ、消去もやり直しも簡単に行えるので、作業が容易になるでしょう。しかし、その簡単さが本当に「考える」力を養えるかどうか、十分な研究を待つ必要があるのではないのでしょうか。言い換えれば、やり直す、書き直す、消去することを手間暇を惜みずやること、児童の脳の活動に好影響をもたらしているということも考えなければなりません。時間を要すること、思考過程それ自体をきちんとノートに残すことは、低学年になるほど考慮に入れられるべきことでしょう。

——デジタル教科書のメリットとして、動画や音声などが組み込めるため、疑似体験ができることも謳われています。

私立小学校は、実物教育や体験学習、本物に触れる教育を重視しています。子どもの学びや発達にとって最も大切なのは体全体、五感をフルに使って感じ取ることだと考えているからです。その観点からすれば、デジタル教材による疑似体験をしたとしても、さらにやっぱり、実体験で裏打ちすることが大切でしょう。

また、動画は情報量がとても大きいわけですが、これも小学校教育にとって一長一





短があります。情報量をあえて限定することによって、児童に能動的な思考を促すことも必要だからです。その観点に立てば、従来の静止画像や文字資料、表やグラフの方が有効な場面が多いというのが私たちの実感です。

確かに、実験・観察における仮説・予想を十分行なった上で、実際の様子を見て、その後補助的に動画を確認したり、その場

では実物を見ることができないものを見せたりすることに動画は便利です。しかし、動画観察の容易な環境に甘んじて、デジタル教科書とデジタル教材の中に安住するならば、本物の学習にはなりません。例えば理科教育において、理科に精通していない教員が容易に動画の視聴だけで学習を進めても良いと勘違いすることがあるならば、危険だと言わざるを得ません。

「多様性」にこそ私立学校の魅力がある

——私立学校は公立校とは異なり、一貫教育校などさまざまな形態の学校があります。教員の転動も基本なく、創意工夫に満ちた教育と、アットホームな校風が魅力です。私立学校の多様性についてお教えてください。

昨春、東京都立立川国際中等教育学校附属小学校が開校されましたね。これはまるで私立小学校です。公立が私立小学校を模倣する時代です。でも公立に絶対模倣できないのが、私立学校の最も大きな特徴である、創立者がいるということ。多くの学校は一人の創立者ですが、複数の人々によって創設された学校もあります。

組んだのが私立小学校です。一流の専門家と提携した教育プログラムを導入している学校など、特色ある教育が綺羅星のようにあるのが私立小学校なのです。

ところで、私立小学校は授業料を納めなければなりません。国や都道府県から助成金がありますが、それでも高いのが現実です。もっと授業料を低く抑えられるよう、日本私立小学校連合会として国や都道府県に働きかけています。

——私立小学校に入学するには、各学校が実施する入学試験に合格しなければなりません。

ペーパーテストのほか、行動観察や保護者面接、保護者作文の提出など、学校によってさまざまな形態があります。そのうちの一つの分野で及第点が取れなかったら、ほかのテストがよくても不合格となる学校もあります。ですから、その学校の入試スタイルをしっかりと調べておく必要があるでしょう。

合格のあかつきには、誓約書の提出を求める私立小学校もあることにも注意しておいてください。学校の名誉を傷つけない、校外の活動を重視して学業をおろそかにしないなどの内容です。

——私立小学校には、大きく分けてどのような種類があるのでしょうか。

まずは、宗教系の学校が無宗教系かということで分かりますが、誤解して欲しくないのは、宗教系であっても、その宗教が大事にしていることは教えますが、入信を強制する学校ではないということです。宗教系でも仏教やキリスト教で違いますし、キリスト教系の学校にはカトリック系とプロテスタント系があります。仏教系でも宗派の違いがあります。新興宗教系の学校もあります。

次に、中高や大学など上級の付属校があるかどうか。付属中に内部推薦制度があっても、成績によっては上級学校に推薦してもらえない学校もあります。

また、学校が強制しているわけではありませんが、6年生全員が中学受験をするので、中学受験準備の指導を取り入れている学校もあります。

私立小学校のほとんどは学校法人立ですが、株式会社立の小学校もあります。株式会社立は公費助成が受けられませんので、授業料がたいへん高くなります。

——私立小学校を選ぶポイントをお教えてください。

一つ目は、建学の精神や教育方針が家庭の教育方針に照らし合わせて魅力的であるかどうか。

二つ目は、校風や児童の様子がわが子の性格や興味関心に合致しているかどうか。

三つ目は、通学時間の問題。混雑した電車やバスの場合、通学時間は考慮した方がよいですね。通学時間に制限を設けている学校もあります。

とにかく、私立小学校には「偏差値」というものはありません。すべての学校が特

地域と連携し、危機管理意識を強める

——「安心・安全」に対する保護者の関心が高まっています。地域との連携や震災、感染症への対策など、私学ならではの危機管理の取り組みについて教えてください。

東日本大震災の発生からもう12年になるのです。新型コロナウイルスによるパンデミックは3年も続きました。

大震災の後は、小さい子どもを遠距離通学させるのは心配だといって、私立小学校受験が減少しました。

しかし、新型コロナにおいては先述の通り、全国一斉休校が政府によって実施される中、私学の家庭学習支援やICT環境などが優れていると評判をとり、私立小学校の応募者が増えました。

Zoomによる双方向授業や、YouTubeの動画配信を活用したオンデマンド（繰り返し視聴が可能な）授業、多様なスタイルの分散登校や時差登校など、私立小学校ではさまざまな工夫が講じられました。その理念は「子どもの学びを止めない」ことに尽きます。

学校行事なども、できる限り可能性を追求し、中止を余儀なくされた行事についても、代替の企画を工夫しました。

教員研修も、対面集合形式を追求しつつ、オンラインと対面の両方、ハイブリッド形式で実施し、教育の質の保証を研修で深めて維持してきました。

——私立学校はどんな困難も乗り越え、優れた教育システムを構築してきたのですね。

私立小学校に通わせる上で一番の心配は、交通機関を使って登下校しているときです。学校にいるときは教職員が児童の安全を確保する訓練を重ねていますので、公立小学校に負けません。大事なところは、災害が登下校時に発生したときです。

そこで、大震災の教訓から、私立中等高等学校協会と連携して「避難校ネットワーク」を作り上げています。今後は、何か大きな災害で交通機関が一斉に止まり、子どもたちが自宅に帰れないことが起こっても、駅構内で子どもたちが安全に確保され、最寄りの私立学校の教職員が他校の児童でも迎え入れます。そして、ネットを通じて私

色を持って、これからの世界で活躍する子を育てています。

もちろん、学校教育法に定められた小学校ですから、基本は日本の学習指導要領に従って教育を行っています。その点でも安心してお子様を預けていただければと思います。

立小同士が相互に保護している児童について連絡し合います。実際に機能しないと意味がありませんので、毎年1回、すべての学校が参加する訓練をしています。

さらに、津波の心配のない学校を含めて、東日本大震災における「釜石の奇跡」などを学び、危機管理意識を強めています。

——私立小学校において、地域との連携も欠かせない課題ですね。

児童は登下校時をはじめ、何かにつけて地域の皆さんに守っていただいておりますし、迷惑をかけることもあります。公共交通機関の中でマナーを守らずに叱られることもあります。従って、地域の皆さんへの挨拶活動や御礼の活動はとても大事です。

地域の交番、駅、バス営業所、病院をはじめ、お世話になっている皆様への感謝の活動をするのももちろんのこと、日頃の学習活動においても、地域の皆様にご協力をいただいております。スーパーでのお買い物体験や消防署や郵便局の見学、その他いろいろな地域の学びがあるからです。

このように、私立小学校は公立小学校に負けず劣らず、地域の皆さんとの連携を大切にしています。

——私立学校では親子二代、三代続けて同窓生、といったご家庭も珍しくありません。私立学校の魅力につきまして、メッセージをお願いいたします。

いま、「私立学校法」の改正が進められています。これは、私立学校において不祥事や法令違反が起きないように自浄作用が働く体制をつくるというものです。

私もヒアリングを受けたり、特別委員会の一員として議論に加わりました。その中で痛切に感じたのは、創立者と建学の精神、伝統を重んじ、時代の先端を走る特色ある教育づくりに燃えている学校こそが不祥事を起こさない学校だということです。

大事なことなので何度も申しますが、私立小学校には必ず創立者がいます。創立者は自分の教育の理想を「建学の精神」として表します。他の学校に飽き足りないがゆえに自分の理想の学校をつくるわけですから、当然ながら「先取の精神」があり、「先



田所 浩志

駆的教育を行うぞ」という情熱があります。

そして何十年、百年という歳月を超えて、建学の精神をそのときどきの時代の要請に応じて教育プログラムに反映させます。建学の精神をどう発展させるかを常に考えているのが私立小学校なのです。ですから、私立小学校は常に新しいことにチャレンジしていると言って過言ではないのです。

そういう私立小学校だからこそ、祖父母、親、子供、孫、曾孫と何代にもわたって同じ私立小学校に通わせようという家庭がたくさんあるわけです。そしてまた教職員も、創立者や建学の精神にほれ込んで教育をします。退職まで働き続ける人がほとんどです。そうしたことから、丁寧で濃密な人間関係のもとで教育が引き継がれ、実施される。これが私立小学校の何よりの魅力でしょうね。

——本日はどうもありがとうございました。

